

ルーテル学院大学  
自己点検・評価報告書

[追加資料：平成17年度からの組織体制について]

平成17年6月

ルーテル学院大学

## 目 次

1. はじめに	1
2. 組織再編計画の概要	2
3. 学部収容定員増加と学部改組の概要	3
4. 大学院臨床心理学専攻（修士課程）新設の概要	10
5. 平成17年度からの教員組織	22
6. 施設・設備の拡充計画〔新校舎の建築〕	23

## 1. はじめに

本学では、2005年度から大学院・学部・学科を以下に記載のように改組拡充させて再出発をした。これは、理事、評議員、学生、同窓生、教職員の意見を広く聴取し、様々な希望・意見を取り入れて取り組んだものであり、これまでの本学の特徴をより鮮明にすることができたと考えている。また、より多くの方に本学を活用していただくための改組拡充であると考えている。

### 1. 神学科をキリスト教学科へと名称変更を行った。

この変更は、牧師養成だけではなく、キリスト教文化やキリスト教芸術等々に関心を持つ信徒や一般の市民の方々に門戸を広く開放してきたこれまでの神学科の実情に即した変更である。入学定員は10名である。なお、現在、牧師養成の重心は、キリスト教学科と協力しながらも、日本ルーテル神学校におかれている。

### 2. 神学科キリスト教カウンセリングコースを臨床心理学科として独立させた。

1992（平成4）年度以降取り組んできた、神学科キリスト教とカウンセリングコースでのカウンセラー養成教育を、学内外からの要請に応じて、臨床心理士等のより専門性の高い職業人を養成すべく、臨床心理学科として独立させた。入学定員は30名である。

### 3. 社会福祉学科の入学定員を80人から60人に減員させた。

この変更は、社会福祉現場への就職希望者が非常に多い（毎年就職する者の約90%が社会福祉とその関連分野である）本学の社会的使命は、少人数教育を一層徹底させることによってこそ図られると考えて実施された。

### 4. 大学院に臨床心理学専攻修士課程を設置した。

この開設は、上記2に記載の通り、臨床心理士資格の取得が可能なものとするためのものである。これによって、学内に設置されている「人間成長とカウンセリング研究所」の活動がさらに生かせることとなる。

### 5. 学部の名称を総合人間学部に、大学院の名称を総合人間学研究科へと変更した。

これによって、生活を支える（life support）社会福祉学科、心を癒す（mental care）臨床心理学科、たましいを救う（spiritual care）キリスト教学科という、本学が本来目指してきた三つの側面から人々を支え、人間存在そのものを総合的に研究するという方向性が一層鮮明になったと考えている。

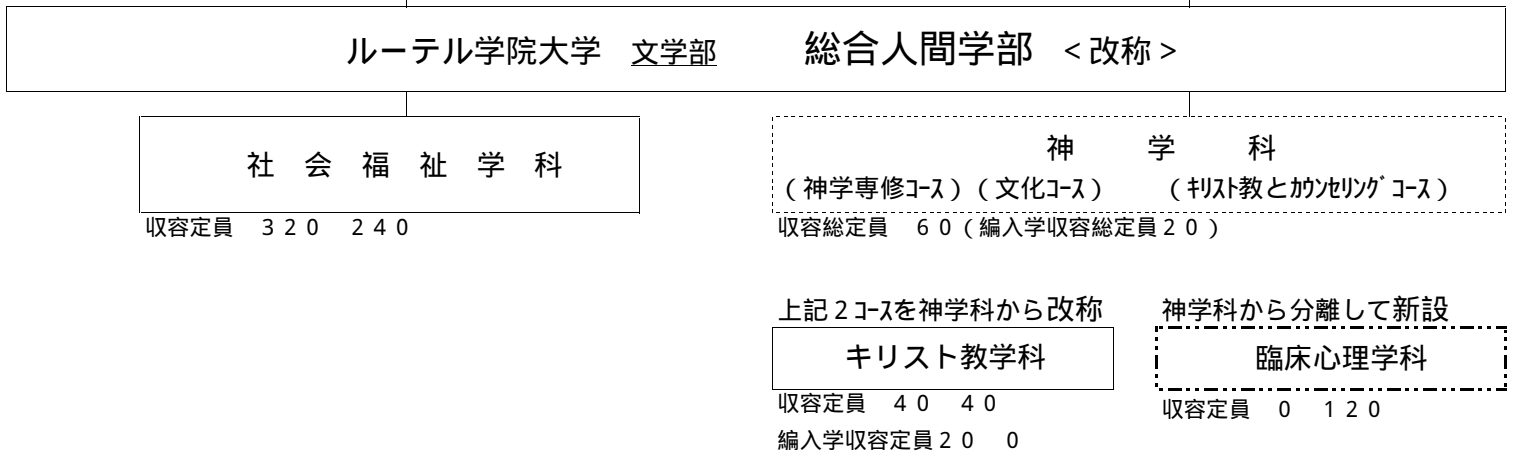
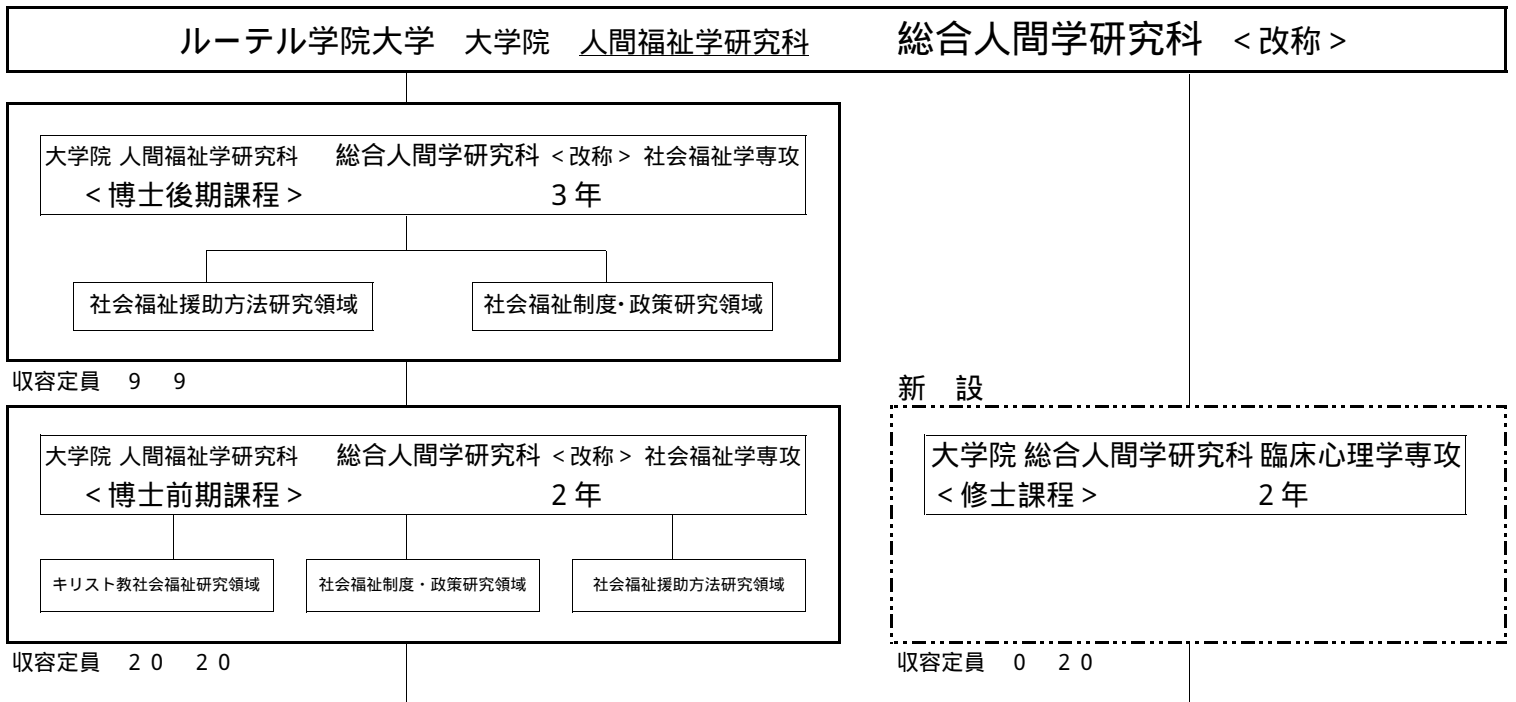
この結果、学部は総合人間学部キリスト教学科、臨床心理学科、社会福祉学科で合計入学定員は100名となり、大学院は総合人間学研究科社会福祉学専攻博士後期課程（入学定員3名）と博士前期課程（入学定員10名）、臨床心理学専攻修士課程（入学定員10名）となった。これに伴い、専任教員の増員も図っている。

### 6. 新校舎の建築工事を進めている。

上記改組に伴い、学生の総定員が増加することとなり、これに対応すべく21世紀に相応しい新校舎の建築を進めている。大・中・小教室や情報処理教育対応の教室や、各種学生窓口（学生課、教務課、学生相談室等）が設けられる予定である。2005（平成17）年度中には完成し、2006（平成18）年度から利用開始の予定である。

以上の改組・拡充により、本学の建学の精神、託された使命がますます鮮明になり、教職員一同思いを新たに新しい一步を踏み出したところである。

## 2. 組織再編計画の概要



### 学部収容定員

	文学部	総合人間学部
社会福祉学科	(80) 320	(60) 240
神学科 キリスト教学科	(10) 40	(10) 40
編入学(3年次)	(10) 20	(0) 0
臨床心理学科		(30) 120
収容定員合計	380	400

( )内は入学定員

### 大学院収容定員

	人間福祉学研究所	総合人間学研究所
社会福祉学専攻 博士前期課程	(10) 20	(10) 20
博士後期課程	(3) 9	(3) 9
臨床心理学専攻 修士課程		(10) 20
収容定員合計	29	49

### 3. 学部収容定員増加と学部改組の概要

平成 17 (2005) 年度より、学部収容定員を 380 名から 400 名に増員し、学科別の定員について、次のように定めた。

- 1) キリスト教学科 入学定員 10 名 (収容定員 40 名)
- 2) 臨床心理学科 入学定員 30 名 (収容定員 120 名)
- 3) 社会福祉学科 入学定員 60 名 (収容定員 240 名)

#### 1. 収容定員増加と学部改組の概要

本学は、これまで、文学部に神学科と社会福祉学科との 2 学科を擁していた [本学の沿革については次項 2 項参照]。

1 学部 2 学科体制における定員は、

- ・神学科の入学定員 10 名、編入学定員 10 名、収容定員 60 名、
- ・社会福祉学科の入学定員 80 名、収容定員 320 名

であり、2 学科を合わせた学部の定員は、入学定員 90 名、編入学定員 10 名、収容定員 380 名であった。

この 1 学部 2 学科体制を、平成 17 (2005) 年度から 1 学部 3 学科体制に改組すべく、平成 16 (2004) 年 4 月に大学設置審議会に届け出を行った。学部を改組する最大の目的は、平成 4 (1992) 年に神学科に設置した 3 つのコースの内「キリスト教とカウンセリングコース」を独立させて「臨床心理学科」とすることにあつた [臨床心理学科設置の必要性については 3 項参照]。

臨床心理学科の定員については、充実した教育を提供するために必要な教職員配置を可能にすることと、一方で少人数教育の理念を堅持することとのバランスを勘案し、入学定員 30 名・収容定員 120 名が適切と判断した。この定員を確保するために、これまでの学部定員の内、社会福祉学科の入学定員 20 名・収容定員 80 名を減じて臨床心理学科に割り振る措置、および、神学科に設けていた編入学定員 10 名・収容定員 20 名を減じて臨床心理学科に割り振る措置を採ることとした。しかし、なお不足する臨床心理学科の収容定員 20 名分については、社会福祉学科・神学科とも社会的な貢献度が高く、両学科の定員をさらに削減することは好ましくないため、臨床心理学科の適正規模を確保するためには、学部全体として 20 名の収容定員を増加する必要があつた [収容定員増加の必要性については 4 項参照]。

また、平成 17 (2005) 年度からの学部改組に伴い、学部名称をこれまでの「文学部」から 3 学科体制に相応しい「総合人間学部」に変更する措置、およびカウンセリングコ

ースを独立させた後の「神学科」を「キリスト教学科」に名称変更する措置についても平成 16（2004）年 4 月に大学設置審議会に届け出た。

## 2. 建学の精神と沿革：本学の教育基盤

本学の沿革について主要な事項を記す。

（1）本学は明治 42（1909）年、日本福音ルーテル教会によりキリスト教会教師の養成のために建てられた「路帖神学校」（後の「日本ルーテル神学校」）を前身校とする。

（2）昭和 39（1964）年に日本ルーテル神学大学（神学部神学科）として認可された後も、本学はキリスト教の信仰と使命を建学の精神とし、一貫してキリスト教精神に基づいた教育を堅持し、キリスト教の教会に仕える牧師および指導者の養成にあたってきた。

（3）昭和 51（1976）年に神学部神学科に「神学専修コース」と「キリスト教社会福祉コース」を設けた。以来、少人数教育を重んじ、また個別指導による実習に力を注ぎ、キリスト教宣教と社会福祉の第一線で働く人材の育成に努めてきた。

（4）昭和 57（1982）年に「人間成長とカウンセリング研究所」を附属研究所として設立し、教育と研究に加え、教会関係者や一般市民を対象とした公開講座およびカウンセリングサービスを提供している。

（5）昭和 60（1985）年には「ルター研究所」を附属研究所として設立し、宗教改革者マルチン・ルターの神学に関する研究と学内外の教育活動にあっている。

（6）昭和 62（1987）年に、神学部を文学部に改組し、社会福祉学科設置の認可を受け、文学部神学科（入学定員 5 名）と文学部社会福祉学科（入学定員 30 名）の 2 学科体制となった。

（7）平成 4（1992）年、神学科の入学定員を 10 名、社会福祉学科の入学定員を 60 名に改めた。神学科には、神学専修コース、キリスト教と文化コース、キリスト教とカウンセリングコースの 3 コースを設置した。

（8）平成 13（2001）年、高度の専門家を養成する教育に対する社会的要請に応えるために、大学院人間福祉学研究科社会福祉学専攻（修士課程）を設置した。

（9）平成 16（2004）年、大学院社会人間福祉学研究科社会福祉学専攻の修士課程を博士前期課程に変更し、新たに博士後期課程を設置した。

## 3. 臨床心理学科設置の必要性

本学に臨床心理学科の設置を必要とする理由は大きく分けて 3 つある。ひとつは、(1) 心のケアを求める社会的ニーズが高まっていること、次に、(2) 本学が臨床心理に関する教育・研究・実践に大きな実績を収めて来たこと、しかし最後に、(3) 現状の学科構

成ではその実績を活かすための限界を抱えていること、の3点である。以下、3点について骨子を述べる。

#### 心のケアを必要とする社会的状況

##### a) スクールカウンセラーの必要性

いじめや不登校など子どもの問題が学校で顕在化しているため、学校現場で子どもや青少年の問題に適切かつ効果的に対応できる専門家としてスクールカウンセラーの養成が求められている。

##### b) 虐待など暴力被害者の心のケアができる専門家の必要性

虐待を受けた子どもへの心理治療はようやく緒についたばかりの段階であり、専門家の養成が求められている。ドメスティックバイオレンスや高齢者虐待についても現在は法的介入に関心が集まっているが、今後は心理的ケアの必要性について認識が高まると考えられる。

##### c) 自殺問題に対応できる専門家の必要性

長引く経済不況と高齢化を背景に自殺問題が深刻化している中、危機介入など自殺予防に携われる臨床心理専門職を養成する必要がある。

##### d) 精神保健領域に詳しい専門家の必要性

日本では心の病を抱える人の地域生活を支える制度が不十分であり、やむを得ず入院を継続しているいわゆる社会的入院が問題となっている。心の病を抱える人の地域生活を支えるために精神保健領域の知識と実践能力を備えた専門職を養成する必要がある。

##### e) スピリチュアルなニーズに応える専門家の必要性

物質的な豊かさが達成される中、人々は生きる意味を見失い模索している。また、医療が高度化する中、人間らしい生き方と死の迎え方が問われている。心身のニーズだけではなく「スピリチュアル（霊的）」なニーズを理解し、人を総合的に捉えられるような幅広い人間理解ができる専門職を養成する必要がある。

##### f) 多文化共生社会の構築に寄与する専門家の必要性

国際化が進行する中、さまざまな文化的・民族的背景を有する人たちが直面する問題の解決に当たり、多様な価値観を尊重した援助ができる臨床心理専門職を養う必要がある。

#### 本学が有する教育基盤の有効活用

##### a) 大学附属「人間成長とカウンセリング研究所」

本学は開校以来、牧会カウンセリングに関する教育と研究に力を注いできた。その実績を踏まえ、昭和 57（1982）年に大学附属研究所として「人間成長とカウンセリング研究所」（PGC）を開設した。PGC は教会関係者や市民を対象に各種研修プログラムを開催している。基礎講座は累計 2,500 人が修了した。基礎講座修了後は、「カウンセリング訓練コース」から「継続教育プログラム」へとつながる研修プログラムが実施されている。すべての研修プログラムを修了して認定を受けた PGC 認定カウンセラーと大学教員とが担当して、地域に開かれたカウンセリングサービスを提供している。

#### b) 神学科キリスト教とカウンセリングコースの教育

「人間成長とカウンセリング研究所」の研究・教育・実践活動の実績に立って、平成 4（1992）年、神学科の定員を 5 名から 10 名に増員し、神学科の傘下に「キリスト教とカウンセリングコース」を設置した。その教育の特色は、キリスト教の精神と人間観を基盤にしたカウンセリングを学ぶこと、実践を重視し援助技法や検査技法に関する科目を多数開講していること、精神科のある病院やハンセン病者療養所でカウンセリング実習を実施していること、などである。当初は援助技法の科目が多数を占めたが、基礎心理学科目も充実させて認定心理士の資格を取得できる教育課程を提供している。

#### c) 「いのち」に関する教育と実践

本学では教育全体を通して「いのち」に関わる教育に力を入れている。教養科目として「生命」に関わる科目群を設けている。また、神学科や社会福祉学科では生命倫理やターミナルケア、グリーフワークに関する科目を開講してきた。PGC では、死別を体験した大人と子どものためのグリーフサポートグループを平成 9（1997）年から継続している。

#### d) 地域における活動

本学は、三鷹市など地元自治体や地元市民とのつながりを大切にしている。臨床心理関係では、三鷹市教育委員会が実施しているメンタルフレンド派遣事業に、平成 5（1993）年度の制度開始当初から本学学生が主力メンバーとして関わり、不登校や引きこもり傾向にある子どもへの訪問活動やグループ活動に貢献している。

#### e) 教会とのつながり

本学は、設置母体であるルーテル教会から支援を受ける一方、大学から教会への貢献に努めている。一例は、各地の教会を会場とした講演会に本学専任教員を講師派遣することである。教会から求められるテーマとして子育てや介護問題、家族関係など心のケアに関するテーマが多く、講演への反響からも教会において教会員相互のサポートや教会に来られる地域住民の心のケアが重要な課題となっていることが分かる。

#### f) 国際性



本学は4人の米国人専任教員を擁している。この内1名がPGCの所長であり、キリスト教とカウンセリングコースの科目を担当してきた。またPGCの創立者であり初代所長であったケネス・デール本学名誉教授は米国に帰国後、同研究所が実施している海外研修の受け入れに尽力している。本学は、韓国などからの留学生も積極的に受け入れており、国際的な視点に立って臨床心理を学ぶ条件が備えられている。

### 本学の教育目的達成のための学科設置必要性

上記のような社会的要請に応えて、幅広い人間観と確固たる価値観とを備えた臨床心理専門職を養成することは本学の建学の理念に合致した教育的使命と考えるが、その使命を果たすためには、キリスト教とカウンセリングコースと言う枠を拡大して学科として独立させる必要性が認められた。以下に、これまでの枠組みでの限界と学科設置の必要性について記す。

#### a) 学科規模の適正化

キリスト教とカウンセリングコースはこれまで、神学科に設置された3コースの内の1コースとして位置づけられてきた。入学定員10名の小さな学科の定員を3コースに分けることにより緻密で行き届いた教育が可能な反面、教育課程や教育内容の充実には限界がある。

コースに所属する教員は3名であったが、10名定員の学科の中の1コースでは専任教員のこれ以上の増員は望めない。しかし、すでに認定心理士の申請資格が取得できるほどに教育課程を充実させており、学科内の1コースにしては科目数が多く、非常勤講師に依存する割合も高くなっている。また、学生も少人数であり、学生間の相互作用の深さは誇れるが、人間関係の幅は広くない。そこで、専任教員体制の充実と学生の多様性の確保、費用対効果改善のため、学科として拡充する必要がある。

#### b) 学外からの認知

キリスト教とカウンセリングコースの教育課程が質量ともに充実している割に、その規模が小さいこともあって、学外からの認知度は高くない。大学の教育内容を学部名称や学科名称のみで判断されると、神学科の傘下で充実したカウンセリング教育が提供されていることは見過ごされがちである。本学の充実した臨床心理教育に対する学外からの認知を高めるためにも「臨床心理学」を標榜する学科として拡充する必要性が認められた。

#### c) 資格制度への対応

本学がキリスト教とカウンセリングコースを設置した平成4(1992)年当時は、臨床心理士の資格制度が平成2(1990)年に制定され平成3(1991)年に第一回の臨床心理

士資格試験が実施されたばかりだった。その後の約 10 年間に臨床心理士の資格制度が確立して、本学を取り巻く環境は大きく変化し、資格取得や進路指導が課題となっている。

たとえば臨床心理士の受験資格取得に関しては、当初は学部 4 年の教育を修了して 5 年の現場経験を積めば受験資格が得られたが、現在は日本臨床心理士認定協会の指定を受けた大学院を修了することが原則である。就職についても、臨床心理士制度が確立されるに従い有資格者を求める傾向が強まり、約 10 年前のコース設立当時とは比較にならない厳しさである。本学でも認定心理士の資格を取得できるようにカリキュラム改定を行ったが、認定心理士の資格のみでは心理関係の常勤雇用への道は厳しい。

ここ数年、本学の学生にも臨床心理士資格への関心が高まるにつれて、本学自体に臨床心理士の資格を取得する道を備えることが急務である。

#### 4. 学部収容定員増加の必要性

##### a) 臨床心理学科の定員の適正規模

臨床心理学科の定員については、一方で、充実した教育を提供するために必要な財政基盤を確保するためには学生数の増員が求められる。また、臨床心理の専門職を求める社会的要請に応えるために一人でも多くの専門職を養成することも重要である。しかし、本学は、明治 42 (1909) 年の開校以来一貫して少人数教育を大切にし、現在も「一人ひとりを大切にする教育」を教育研究の基本理念としている。今般、臨床心理学科を開設するにあたって、社会的な要請を鑑みればより大きな規模の学科を設けることも考えられたが、教育の質を維持するためにも、あえて小規模な学科を設置して、「一人ひとりを大切にする教育」を堅持していく方針である。

特に臨床心理の専門職を養成するためには、教員と学生との人間的な触れ合いが重要である。教員が個々の学生の個性を理解して個別化した教育を提供するためにも一学年 30 名という学生数が適正と考えられた。

そこで、充実した教育を提供するために必要な教員体制を確保することと少人数教育の理念を堅持することとのバランスを勘案し、入学定員 30 名・収容定員 120 名を適正規模と判断した。

##### b) 学部としての定員の適正規模

これまでの 1 学部 2 学科体制を 1 学部 3 学科体制に改組すると、必要な専任教員の人数が現状よりも 2 名増える。専任教員体制の拡充に加えて職員体制や教育施設など 3 学

科体制に必要な教育基盤を整備するためには、学部全体としての定員についても見直す必要があった。

学内の検討過程では、学部全体の定員規模を 480 名や 500 名に拡大する案も検討されたが、本学の基本理念である少人数教育を堅持することを重視して必要以上の定員拡充策を採ることなく、最小限必要な収容定員の増加に留めることとした。

そこで、現在の学部の収容定員 380 名に、専任教員の増員 2 名におおよそ見合う 20 名を加えて学部の収容定員を 400 名とすることが適正と判断した。

#### c) 臨床心理学科に伴う既設学科の定員の変更

臨床心理学科の収容定員を創出する方法として、既存の学科の定員を削減することとした。まず臨床心理学科の母体となる神学科からは編入学定員 10 名・収容定員 20 名を減じて臨床心理学科に割り振る措置を採り、社会福祉学科においては、入学定員 20 名・収容定員 80 名を減じて臨床心理学科に割り振る措置を採った。両学科の定員の変更により、臨床心理学科で予定している収容定員 120 名の内 100 名分が確保されることになった。

#### d) 学部の収容定員を増加する必要性

既存の学科の定員を変更してもなお、臨床心理学科として十分な教育体制を整備するために必要な収容定員 120 名に対して 20 名分が不足する。社会福祉学科・神学科とも社会的な貢献度が高く、両学科の定員をさらに削減することは好ましくない。そこで、臨床心理学科の適正規模を達成するために学部全体として 20 名の収容定員を増加する必要があった。学部収容定員の 20 名増加は、前述の通り、学部としての教育体制を整備するためにも必要かつ適正な定員増であったと判断している。

## 4. 大学院臨床心理学専攻（修士課程）新設の概要

平成 17（2005）年度より、大学院総合人間学研究科に臨床心理学専攻（修士課程）

定員 10 名を設置した。

## 1. 臨床心理学専攻設置の概要

### 1) 建学の精神と沿革：本学の教育基盤

本学の沿革について、前述の「3. 学部収容定員増加と学部改組の概要」に記載した沿革と重なる事項もあるが、主要な事項を以下に記す。

(1) 本学は明治 42 (1909) 年、日本福音ルーテル教会によりキリスト教会教師の養成のために建てられた「路帖神学校」(後の「日本ルーテル神学校」)を前身校とする。

(2) 前身校の創立以来、キリスト教の信仰と使命を建学の精神とし、昭和 39 (1964) 年に日本ルーテル神学大学(神学部神学科)として認可された後も、一貫してキリスト教精神に基づいた、少人数制教育によって、キリスト教の教会に仕える牧師および指導者の養成にあたってきた。

(3) 昭和 51 (1976) 年に神学部神学科に「神学専修コース」と「キリスト教社会福祉コース」を設け、それぞれのコースで少人数教育や個別指導による実習を重んじ、キリスト教宣教と社会福祉の現場で働く者の人材育成に努めてきた。

(4) 昭和 57 (1982) 年に「人間成長とカウンセリング研究所 (PGC)」を附属研究所として設立し、教育と研究ばかりではなく、教会関係者や一般市民を対象にカウンセリングに関する公開講座やカウンセリングサービスを提供し始めた。

(5) その後、神学専修・キリスト教社会福祉両コースの充実にともない、昭和 62 (1987) 年、神学部を文学部に改組し、社会福祉学科開設の認可を受け、文学部神学科(入学定員 5 名)と文学部社会福祉学科(入学定員 30 名)の 2 学科体制となった。

(6) 平成 4 (1992) 年、神学科の入学定員を 10 名に、社会福祉学科入学定員を 60 名にする。神学科には、神学専修コース、キリスト教とカウンセリングコース、キリスト教と文化コースを設置し、キリスト教の精神に基づいた特徴ある個別教育を実施してきた。

(7) 平成 13 (2001) 年には社会福祉分野において高度の専門職業人を養成する社会的要請に応えるために、大学院人間福祉学研究科社会福祉学専攻(修士課程)を設置した。大学院人間福祉学研究科社会福祉学専攻においては、すでに多くの入学者を得て、優秀な修了生を輩出している。

(8) 平成 16 (2004) 年度には、社会福祉の分野において、制度・政策のみならず社会福祉援助の方法にも精通した研究者の養成への要請に応え、社会福祉学専攻博士後期課程(定員 3 名)を発足させた。これに伴い前述の社会福祉学専攻(修士課程)を博士

前期課程に改めた。

(9) 平成 17 (2005) 年 4 月より、学部においては神学科と社会福祉学科の 2 学体制であったものを、神学科の中のキリスト教とカウンセリングコースを独立させ、臨床心理学科として設置した。

(10) さらに、平成 17 (2005) 年 4 月より、本学が学部および大学院において人間の生活と魂と心について学び、研究する総合的なカリキュラムを提供しているという内実に合わせて、文学部を総合人間学部へと名称変更し、大学院も人間福祉学研究科を総合人間学研究科へと名称変更した。

## 2) 臨床心理学専攻設置の必要性

本学大学院総合人間学研究科に臨床心理学専攻を設置する理由は大きく分けて 3 つある。それは、臨床心理学科設置の必要性とも重なるが、(1) 心のケアを求める社会的ニーズが高まったこと、(2) 本学が臨床心理に関する教育・研究・実践に大きな実績を収めて来たこと、そして、(3) 臨床心理士受験資格取得ができるカリキュラムを提供する必要性の 3 点である。以下、3 点について詳細を述べる。

### (1) 心のケアを求める社会的ニーズへの対応

現代日本社会においては、不登校やいじめ、虐待、自殺、病気や喪失体験をはじめ、さまざまな心の問題に悩み、援助を求めている人たちがいる。心のケアを求める人びとのニーズに応えることは、キリスト教の理念を基盤に設置運営されている本学が担うべき社会的使命であると考えている。

#### (a) 青少年問題への対応の必要性

戦後、日本の高度経済成長は、国民の所得の増加と生活水準の向上をもたらした。しかし、豊かさを目指して努力した高度経済成長期とそれに続くバブル崩壊期の経験に翻弄される中、子どもたちは「いじめ」「不登校」などさまざまな問題で苦しむことになった。例えば、不登校で 30 日以上学校を休んだ不登校児童生徒数は 13 万人を超え、不登校児童の在籍者比率は 1.2%にもものぼる (平成 14 年度速報値)。多くの青少年が、不安や戸惑いのただ中に置かれ、また、それを支えるべき教員もさまざまな苦難を抱えている。いま、学校の現場で青少年の問題に適切で効果的に対応できる専門家としてスクールカウンセラーの養成が急務となっている。

#### (b) 虐待問題への対応の必要性

全国の児童相談所 (174 ヲ所) に寄せられた児童虐待に関する相談は、平成 14 (2002) 年度は 24,195 件に達した。虐待を受けた子どもは心身に深い傷を負っており、傷を癒

し健全に成長していくためには専門的な援助が欠かせない。公的な対応としては、児童相談所や情緒障害児短期治療施設において心理治療的援助が行われる他、平成11(1999)年からは被虐待児などが10名以上在籍している児童養護施設に心理療法を担当する職員を置くことができるようになった。しかし虐待を受けた子どもへの心理的なケアの体制は不十分で、より多くの専門家の養成が求められている。また、虐待の再発を予防するためにも、虐待をしてしまう者への専門的援助の必要性も認識されてきている。

なお、虐待を受ける者は児童のみにとどまっていない。ドメスティックバイオレンスの被害者や高齢の被虐待者も増加しており、社会問題となってきている。これらの者への緊急対応が急がれている。

#### (c) 自殺者の増加とその対応の必要性

わが国の自殺者は、平成9(1997)年度に23,494人であったものが平成10(1998)年度には3万人を超え、その後5年連続して年間3万人を超えている。長引く経済不況による中高年層の自殺の増加、超高齢化社会における高齢者の自殺の増加など、今後心の問題をめぐる事態は悪化することも予測される。自殺は、当事者が事前に示すサインを見逃さずに適切に専門家が対処することによって予防することが可能とも言われる。このような状況に対応するために今後心の問題に対応できる者の養成が必要とされている。

## (2) 本学が有する教育基盤の有効活用

### (a) 大学附属「人間成長とカウンセリング研究所 (PGC)」の活動

本学では、神学校、神学部の時代から実践神学の一分野として牧会カウンセリングに関する教育と研究に力を注いできた。その実績を踏まえ、前述したように昭和57(1982)年に大学附属研究所として「人間成長とカウンセリング研究所 (PGC)」を開設した。研究所の名称に人間成長を謳っていることからもうかがわれる通り、同研究所の目的は人々の全人的(ホーリスティック)な成長を支援するために、キリスト教の信仰を基盤としてカウンセリングの研究と研修、および実践を行うことにある。全人的な成長を支援するカウンセリングの特色とは、人々の持つ問題を心理的・身体的・社会的に捉えるだけでなく、霊的(spiritual)な側面にも着目することであり、そこにキリスト教信仰を基盤とする意味がある。

同研究所では、教会関係者や市民を対象に各種の研修プログラムを開催している。カウンセリング基礎講座には毎年100名を超す受講生があり、これまで2,500人の修了者を送り出している。

さらに、カウンセリング基礎コースを修了した者を対象としてカウンセラーとしての

トレーニングコースや交流分析研究会などの継続教育プログラムを提供している。継続して研修を受け、PGC 所員（本学教員）のスーパービジョンを受けながら面接の経験を積んで事例提出をし、試験に合格すると PGC カウンセラーの認定を受ける。PGC カウンセラーは、PGC でのカウンセリングサービスに携わる他、各地の教育相談などで活躍している者もいる。

PGC のカウンセリングサービスは、PGC 所員および PGC カウンセラーが担当し、教会関係者や地域市民に対して、予約制でカウンセリングを提供してきた。平成 14（2002）年からは、サービスの専門性に鑑み、カウンセリング料金を設定して徴収している。

#### (b) キリスト教とカウンセリングコースの発展と臨床心理学科の開設

「人間成長とカウンセリング研究所 (PGC)」の研究・教育・実践活動の実績に立って、平成 4（1992）年、本学は神学科の定員を 5 名から 10 名に増員し、神学科に「キリスト教とカウンセリングコース」を設置した。

本学ではキリスト教とカウンセリングコースの教育に当たるための専任教員 3 名を擁している。さらに、社会福祉学科で精神医学や集団療法などを担当する専任教員もカウンセリングコースの科目を担当して幅広い人間理解が可能な教育課程を構成している。カリキュラムは、実践を重視し、援助技法や検査技法に関する科目を多数開講している他、精神科のある病院などでカウンセリング実習を実施している。当初は、援助技法に偏りがちだったカリキュラムに、心理学の基礎的な科目を加えて教育内容の充実に努め、認定心理士の資格も取得できるようになった。

カウンセリングに対する社会的関心はいつそう高まり、近年では神学科在籍者のほぼ 6 割がキリスト教とカウンセリングコースの学生であった。平成 15（2003）年度までに 56 名の卒業生を社会に送りだしている。

なお、今般これらのカリキュラムをより充実させてこころのケアをする専門家養成に対する社会的な要請に応えるために、平成 17（2005）年度より臨床心理学科を開設することとなった。

#### (c) 「いのち」に関する教育と実践

本学では教育全体を通して「いのち」に関わる科目に力を入れている。教養科目に「生命」に関わる科目群を設けている他、専門科目として生命倫理やターミナルケアとグリーフワークに関する科目を開講している。海外研修でも米国などでホスピスや子どものためのグリーフサポートセンターを見学する機会を提供している。平成 7（1995）年から隔年で 3 回にわたって大学主催で子どものためのグリーフサポートに関する講演会・研修会を開催した。平成 9（1997）年からは、大学附属研究所で定期的に死別体験者のためのサポートグループを始めている。

#### (d) 地域における活動

本学は、三鷹市をはじめとする地元自治体や地元市民とのつながりを大切にして、地元からの理解と支援を受けるとともに、地域への貢献をしてくれている。臨床心理関係では、三鷹市教育委員会が実施しているメンタルフレンド派遣事業に、本学学生が主力メンバーとして関わり、不登校や引きこもり傾向にある子どもへの訪問活動やグループ活動に貢献している。

#### (e) 教会とのつながり

本学は、設置母体であるルーテル教会から支援を受ける一方、大学から教会への貢献に努めている。教会関係者が本学の科目等履修生制度を利用したり公開講座に参加したりする他、教会員と近隣住民を対象とした講演会に本学専任教員を講師として派遣している。教会から求められるテーマとして子育てや介護問題、家族関係など心のケアに関するテーマが多く、講演への反響からも教会において教会員相互のサポートや教会に来られる地域の人びとへの心のケアのニーズが高まっていることが分かる。

#### (f) 国際性

本学は現在4人の米国人専任教員を擁している。この内1名が人間成長とカウンセリング研究所（PGC）の所長でありキリスト教とカウンセリングコースでも重要な役割を担ってきた。本学は、ルーテル教会の国際的ネットワークを活かして多くの海外研修も実施してきた。人間成長とカウンセリング研究所の創立者であり初代所長であったケネス・デール本学名誉教授は米国に在住し、同研究所が実施している海外研修の受け入れに尽力している。本学は、韓国などアジアからの留学生も積極的に受け入れており、国際的な視点に立って臨床心理を学ぶ条件が備えられていると言える。

### (3) 臨床心理士受験資格取得ができるカリキュラムを提供する必要性

#### (a) 臨床心理資格制度への対応

平成4（1992）年に本学が神学科に「キリスト教とカウンセリングコース」を設置してからの12年間に臨床心理士資格制度が急速に発展し確立してきた。臨床心理士として社会的に認められ活躍できる人材を養成するために、本学も時代の要請に応じて大学院を設置し、臨床心理士受験資格取得の道を整えることが急務であると考えているため、早期に日本臨床心理士資格認定協会より指定大学院として認定されるよう申請する予定である。

#### (b) 高度な専門知識と技術の研鑽

人の心や生き方に関わる臨床心理学の専門職には確固たる倫理観及び高度の知識と技術が求められる。臨床心理に求められる高度な専門性を養成するためには、大学院の



修士課程レベルで、少人数による集中的な訓練が必要である。臨床心理の専門性は実際の臨床体験を積み重ねてはじめて習得できるので、大学院レベルの教育において、演習および実習を特に重視し、十分なスーパービジョンを提供し、実践力のある臨床心理士受験資格取得者を養成する。

## 2. 教育研究上の理念、目的

### (1) 一人ひとりを大切にする教育

本学は、明治 42 (1909) 年の開校以来一貫して少人数教育をしてきた。社会的な要請に応じて、少しずつ大学の定員規模を拡大してきたものの、「一人ひとりを大切にする教育」を教育研究上の最も大切な理念として掲げ続けてきた。

よって、大学院に臨床心理学専攻を開設するにあたって、教育の質を維持し、実習と演習を中核にすえた教育をするためにも、あえて小規模な専攻を設立することとし、「一人ひとりを大切にする教育」を堅持していく方針である。

### (2) キリスト教を基盤に、世に仕える人材の養成

本学は、「一人ひとりを大切にする教育」を通じて、「キリストの心を心として神と世に仕える」人材を育成することを理念としている。「神と世に仕える」の「世」とは「世に住むすべての人々」である。キリストの心、すなわち純粋に他者（隣り人）の幸せを願い、他者の人間としての尊厳が保たれ発揮されることを願える心を、一人ひとりの学生の中に育み、世にあって働きを担う者を養成することが本学の使命である。

### (3) 社会に正義をもたらす人材を養成する

現代社会は不正に満ち、正義をうち出しにくい世の中となっている。キリスト教の信仰を基盤にした本学は、個人を心理的に援助することに留まらず、社会のあり方についても発言できる人材を養成することを教育上の重要な目的の一つと考える。聖書は、「不正を憎み、社会に正義と公義をうちたてること」の大切さを語っている。価値観が多様化し、善悪のけじめがつきにくくなっている現代社会のなかで、正しいことを行なう勇氣と知恵と実行力を持つ人材を養成する。

## 3. 人材の養成

### (1) 心の問題を広く理解できる人材の養成

わが国が抱える深刻な問題の多くは、前述したように人々の心の問題と密接に関係している。本学では、文学部神学科（キリスト教とカウンセリングコース）においてすでに心理学関係の科目を豊富に用意し、学生が心の問題を深く理解できるような教育を進

めてきた。大学院の臨床心理学専攻においても、臨床心理学の基礎から高度な心理療法まで体系的に学べるようカリキュラムを構成し、心の問題を幅広く理解し、有効な援助ができるような高度の臨床的知識と技術とを有する人材を養成するように努める。

#### (2) 「最も小さい者」のため労することのできる人材の養成

本学では、「最も小さい者」のためにつくすことのできる人材を養成することを使命と考えている。これは聖書にある「わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたし（神）にしてくれたことなのである」（新約聖書マタイによる福音書 25 章 40 節）と言う聖句に基づいている。

本学大学院では、学部の充実した臨床心理学教育を基盤として、人々の直面する困難についていっそう深く理解できる人間性と、効果的な援助ができる高度な専門性とを備えた人材を養成する。自分の周りの弱い、虐げられた、心の問題を抱えた者の悩みに深く共感し、重荷を共に背負い、それらの者のために労することを厭わず、効果的な関わりのできる人材を養成する。

#### (3) スピリチュアルな面での援助が担える人材の養成

人間は全人的存在であり、肉体的側面、精神的側面、社会的側面のみならず、スピリチュアルな側面も含めて豊かさが求められる。学部教育においては、個々の学生のスピリチュアルな面での豊かさを培う教育を目指しているが、大学院では一歩進んで、スピリチュアルな面での悩みや苦しみを体験している人を援助できる人材を育てたい。生命倫理や死生学に関する科目を開講し、ターミナルケアやグリーフワークに関わる援助を担える人材を養成することが本学の大きな特色である。

#### (4) 国際的な視野を持つ人材の養成

本学はルーテル世界連盟を通して、全世界のルーテル教会（会員数約 9,000 万人）とつながりを持ち、世界の諸教会、諸国と関わりをもつ。臨床心理学専攻においても、国際的なネットワークを活用し、研究者や実践家との交流を通して、国際的な視野を持つ人材を養成する。

#### (5) 調査研究を行うことのできる専門家の養成

心の問題はまだまだ未解明の部分が多い。また、心理療法など援助方法の効果は、これまでの先達の経験の積み重ねは多く報告されているものの、科学的に実証研究されているものばかりではない。本学大学院の臨床心理学専攻においては、心理査定や心理学

研究法、心理統計等についても学べるカリキュラムとし、理論と実践を結びつけ、科学的に諸問題を解明したり、実践の効果を検証したりできる調査研究能力を備えた専門家を養成する。

#### 4. 基礎となる学科との関係

本学大学院の臨床心理学専攻は、その教育研究の柱となる領域が、基礎となる学科であった神学科のプログラムと直接的に関係し、つながりを有する。

##### (1) 本学大学院臨床心理学専攻と基礎となる学科の関係

本学大学院の臨床心理学専攻においては、(a) 臨床心理援助方法研究領域、(b) キリスト教と臨床心理学研究領域、(c) 精神保健研究領域の3つの領域から構成されるカリキュラムである。

これに対して、基礎となる神学科においては、神学専修コース、キリスト教と文化コースとともに、キリスト教とカウンセリングコースがあり、それぞれのコースに応じたカリキュラムが提供されていた。

特に、この3つのコースのうち、「キリスト教とカウンセリングコース」のカリキュラム内容が、大学院の臨床心理学専攻と密接なつながりを有している。なお、既述のとおり、神学科「キリスト教とカウンセリングコース」は、平成 17(2005)年度より臨床心理学科として独立した学科として開設されている。

##### (2) キリスト教とカウンセリングコースのカリキュラム

大学院の臨床心理学専攻は、平成 17 (2005) 年度より独立した学科として開設された臨床心理学科と直接的なつながりを有するが、これまでの神学科 (キリスト教とカウンセリングコース) との関係においても、密接な関係が説明できるので、ここでまずはキリスト教とカウンセリングコースのカリキュラムについて概説する。

神学科のキリスト教とカウンセリングコースは、キリスト教に関する基礎的な知識と価値観を身につけ、それに基づくキリスト教的人間観を修め、その土台の上に、心理学・カウンセリングの専門科目およびそれらに関連する諸科目を学べるようなカリキュラムとなっている。本コースは、カウンセリング演習およびカウンセリング実習を履修して、すべての知識と技能とを臨床心理・カウンセリングの実践に役立つように統合することに特徴がおかれてきた。また、関連諸科目として神学および社会福祉学の諸科目を履修できることも従前からの強みであった。このようなカリキュラムを提供することにより、学生は専門的知識と技能を修得し、深い人間理解と愛をもって援助者として人間

的に成熟していき、カウンセリング・マインドが養われることとなった。

このような教育は、高校（短大）に引き続き高等教育を求めて進学してくる者にだけでなく、既に専門職（例えば、看護師として）として働いている社会人がその専門性に幅と深みとを増したい場合や、新たに他者への援助に関わる仕事に就くことを希望する者など、何らかの社会人経験をもつ人々を今日に至るまで広く受け入れその生涯教育に貢献してきた。

カリキュラムの構成は以下のようなものである。

教 養	(28 単位以上)	
	「英語」 8 単位 「聖書入門Ⅰ、Ⅱ」 (4 単位) 「コミュニケーションの理論」 (2 単位) 「心理学」「心理学Ⅱ」 (各 2 単位) を含むこと	
専門科目	(72 単位以上)	
A. 神学科目 (12 単位)	「聖書の読み方Ⅰ－Ⅳ」 から 2 科目 4 単位を選択必修 「キリスト教と文化の歴史Ⅰ、Ⅱ」 2 科目 4 単位必修 「教理概論Ⅰ、Ⅱ」 2 科目 4 単位必修 計 6 科目 12 単位を含む	
B. 心理学・ カウンセリング 関係科目	人間観：	「キリスト教の人間観Ⅰ、Ⅱ」 (4 単位必修)
	精神医学：	「精神保健学」 「精神保健学Ⅱ」 「精神医学」 「精神医学Ⅱ」 (選択)
	カウンセリング：	「心理療法概説」 「カウンセリングの理論」 「カウンセリング実技の基本」 「カウンセリングの実際」 以上 4 科目 8 単位必修 「カウンセリング基礎Ⅰ、Ⅱ」 「心理検査技法Ⅰ、Ⅱ」 「心理学研究法」 「心理学基礎実験」 「学習心理学」

		「心理統計」 「カウンセリングゼミⅠ」 「カウンセリング実習（施設）」は選択 「カウンセリングゼミⅡ」 （+「家族療法」）または 「カウンセリングゼミⅢa、Ⅲb」 のいずれかを選択必修
	心 理：	「人間関係論」 「発達心理学（発達障害を含む）」 「社会心理学」 「生理心理学」
	療 法：	「SST（ソーシャル・スキルズ・トレーニング）」 「表現・芸術療法」は選択。 「家族療法」は選択必修。

なお、本コースが提供する科目群から適切に履修すれば「認定心理士」として認定される。

### （3）神学科（キリスト教とカウンセリングコース）を発展させて臨床心理学科を開設

平成 17（2005）年度より本学においては臨床心理学科を開設した。臨床心理学科のカリキュラムは神学科のキリスト教とカウンセリングコースを基礎に、いくつかの科目を加えて充実させたものである。

臨床心理学科においては、科目群をプログラムとして位置づけ、それぞれ（a）臨床心理コアプログラム、（b）キリスト教とカウンセリングプログラム、（c）精神保健福祉プログラムの3つのプログラムとして科目群を位置づけている。

（a）「臨床心理コアプログラム」は、上記のコースの専門科目の中でも、「カウンセリング」、「心理」、「療法」などの領域の科目に新設科目をいくつか追加して成り立っている。また、（b）「キリスト教とカウンセリングプログラム」は、上記のコースの専門科目の中でも、主に「神学」や「人間観」の領域の科目から成り立っている。そして、（c）「精神保健福祉プログラム」は、上記のコースの専門科目の中の「精神医学」の領域の科目に精神保健福祉士受験資格取得に必要な科目を追加したのから成り立っている。

#### (4) 臨床心理学専攻と基礎となる学科との関係

本学大学院の臨床心理学専攻と基礎となる学科との関係は、直接的なつながりがある。臨床心理学専攻に設けられる3つの研究領域それぞれについて、基礎となる学科の科目領域とつながりがあり、臨床心理学科の3つのプログラムとも直接的なつながりがある。

(a) 臨床心理学専攻の「臨床心理援助法領域」は、神学科（キリスト教とカウンセリングコース）の「カウンセリング」「心理」「療法」などの領域の科目と直接的につながっている。臨床心理学科では「臨床心理コアプログラム」と密接につながる内容となっている。

(b) 臨床心理学専攻の「キリスト教と臨床心理学研究領域」は、神学科（キリスト教とカウンセリングコース）の「神学」「人間観」などの領域の科目と直接的につながっている。臨床心理学科では「キリスト教とカウンセリングプログラム」と密接につながっている。

(c) 臨床心理学専攻の「精神保健研究領域」は、神学科（キリスト教とカウンセリングコース）の「精神医学」などの領域の科目と密接につながっている。臨床心理学科では「精神保健福祉プログラム」と密接につながっている。

#### 5. 将来の構想

臨床心理学は、実践の場で知識と技術を生かすことのできる専門分野であると同時に、実践の質を高めるための研究や、後継者を養成するための教育も重要な分野である。特に、キリスト教カウンセリングや、教会で牧師が行う牧会カウンセリングの領域で後継者の養成に当たれるような人材は国内に希有であり、本学の果たすべき役割が大きいものと考えられる。将来的には、キリスト教カウンセリングや牧会カウンセリングの領域をはじめとした臨床心理学の研究者や教育者の養成を主眼として博士後期課程の設置を目指す構想をもっている。

## 5. 平成17年度からの教員組織

平成17年度からの学部改組等に伴い、教員組織は以下のとおりとなった。  
特に新設学科の教員は、既設学科の教員の一部が移行するとともに、新規採用も行い、全学の収容定員からみた必要専任教員数も満たしている。

### 平成16年度

	職位	人数
神学科	教授	5
	助教授	3
	講師	3
	計	11

社会福祉学科	教授	9
	助教授	3
	講師	2
	計	14

教養部門	教授	2
	助教授	1
	計	3

教員合計	28
------	----

(大学設置基準上必要教員数 27)

### 平成17年度

	職位	人数
キリスト教学科 (神学科からの名称変更)	教授	3
	助教授	2
	講師	2
	計	7

社会福祉学科	教授	9
	助教授	2
	講師	2
	計	13

臨床心理学科 (新設)	教授	4
	助教授	2
	講師	1
	計	7

教養部門	教授	1
	助教授	1
	計	2

教員合計	29
------	----

(大学設置基準上必要教員数 29)

## 6. 施設・設備の拡充計画 [新校舎の建築]

今日に至るまで定員増、学科増及び大学院設置により、工面しながら使用してきた教室数にも限界が生じている。教育環境整備のために、現在、以下の概要で校舎建築が進められている。

### 建 物 概 要

建設場所	東京都三鷹市大沢 3-10-20
用途地域	第1種中高層住居専用地域
工期	2004年12月14日～2005年12月28日
敷地面積	1,956.56 m <sup>2</sup>
建築面積	1,076.13 m <sup>2</sup>
延床面積	1,820.68 m <sup>2</sup>
構造	鉄筋コンクリート造 2階建 一部木造屋根構造

### 主 要 所 室

- |     |   |
|-----|---|
| 1 階 | ラウンジ、学生サービス部門の事務室、学科合同事務室<br>ゼミ室 2室 会議室 等 |
| 2 階 | マルチメディア関連教室 3室 、一般教室 1室 等                 |

### 建 物 の 特 徴

マルチメディア関連教室には、1学年全員(約200人)収容できる教室を1室設け、プロジェクター2台、プラズマテレビ2台を設置するなど、コンピューターやその他の映像を利用した、授業やイベントにおいて多様な使い方のできる教室としている。その他の教室に関しても、学生1人1台のコンピューター用いた授業ができる教室とし、マルチメディア環境の充実を図っている。

また、環境に配慮した試みとして、空調負荷を軽減するために、廊下上部のトップライトにはガラス面を流れる水の蒸発熱を利用した水冷システムを導入している。また、照明の一部の電力をまかなう風力発電設備の設置や、屋上やルーフテラスに積極的に植栽を施すなど、数々の試みを行っている。